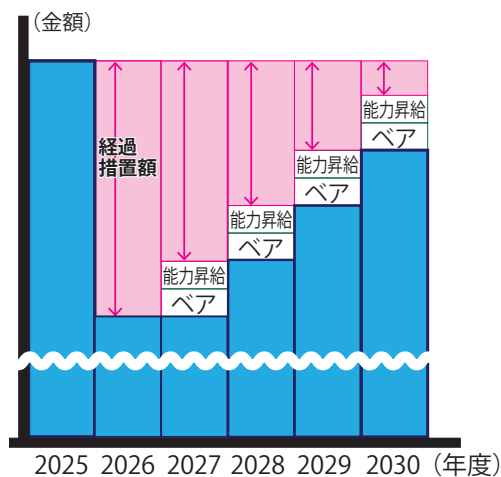


乗務員も含めた切り捨て攻撃 現業廃止・外注化阻止で闘おう

乗務員に対する重大な攻撃

- ◆乗務手当廃止という歴史的な攻撃
- ◆経過措置＝「5年間は賃上げなし」
- ◆労働時間10分延長→純粋な賃下げ
- ◆出勤予備の廃止
- ◆全面的ワンマン拡大・車掌1100人削減攻撃

経過措置のイメージ図



乗務手当の廃止は重大な賃下げ攻撃であるだけでなく、歴史的な大改悪です。乗務員の勤務をどうするかは、戦後に鉄道会社として出発する上で最大の問題だったからです。

乗務手当廃止等の歴史的攻撃

組織・人事賃金制度・労働条件の抜本的改悪提案―「現業と非現業の区別をなくす」とするこの攻撃は、全面外注化攻撃と一体です。そして、乗務員が直接的な攻撃の対象にされています。それは唯一外注化されていない現業の職種が乗務員だからです。

や定昇分は相殺されます。つまり、「5年間はベアしようがまったく賃金が上がらない」ということです。

さらに乗務員の労働時間を10分間延長（月あたり3時間以上）。乗務していれば必ず時間外労働が発生しますが、同じだけ働いても計算上の超過勤務は減らされます。しかも、その分は経過措置の対象にもなりません。重大な賃下げ攻撃です。

喜勢社長が「30年頃に車掌1100人削減」と打ち出したように、この5年は全面的なワンマン化・車掌削減が進められる過程でもあります。

カギは闘う労働組合

攻撃の核心は、現業切り捨てと全面外注化です。改めて外注化攻撃との対決の時です。重大事故続発など外注化の矛盾はすでに明らかです。

動労千葉の外注化阻止闘争は「7～8年で最終段階」とされた攻撃を12年にわたって阻止しました。攻撃を打ち破るカギは職場の団結した声と闘い、労働組合の力です。動労千葉とともに「現業廃止・外注化」攻撃に反対の声をあげよう。